

広報レポーターが気づいたまちの魅力

住みよさを  
実感

# 今も続く伝承の建物と支える地域の力

## 「栄福寺薬師堂御開扉」(角田地区)

国指定重要文化財「栄福寺薬師堂」  
印西市角田2



広報レポーター

宇野 建夫 (小倉台)

北総線印旛日本医大駅から西方向へ10分ほど歩くと、そこは角田の集落の入口で、庚申塔の石塔が迎えてくれます。さらに歩を進めて行くと間もなく寺の山門が見えます。奥を覗くと、朱色に塗られた柱と垂木に茅葺の屋根の勾配が美しい、県内で最古の木造建造物と言われる栄福寺薬師堂が姿を現します。室町時代の

33年ぶりに開かれた厨子



建築という薬師堂の中には、極彩色に彩られた厨子が設えられ、普段は開かれることの無い扉が、昨年11月実に33年ぶりに開扉され、薬師如来像が地域の人々の前に姿を現しました。「角田地区全23軒が地域コミュニティの中で、季節ごとの行事を伝え続け、寺などを守っています」と総代役の小名木さんは語ります。地域の皆さんは、月1回は寺に集まり掃除や手入れを行い、元旦のゴマタキから始まり五穀豊穡を祈るオビシャなど、地域の繋がりを確かめる行事を続けます。兼業農家が多くなった今でも、おいしいと評判の米や野菜づくりを中心に田畑を耕作して、美しい里山の風景を守ってくれています。

閩生涯学習課文化班(☎33-4714)

集落の安寧を見守る庚申塔



御開扉に集う人々

